のべおか天下一薪能

12日、延岡城址二の丸広

母と息子の「海士」、父と娘の「景清」

子方で下沖美乃莉さん（西階中）出演

10/9

秋の夜、「千人殺し」の石垣を背景に幽玄の世界へといざなう「第23回のべおか天下一薪能（てんがいちたきぎのう）」が12日午後5時30分から、延岡市の延岡城址（じょう）＝城山公園＝二の丸広場で行われる。NPO法人のべおか天下一市民交流機構（松下宏理事長）主催。雨天時は同市東浜砂町の延岡総合文化センターに会場を移す。

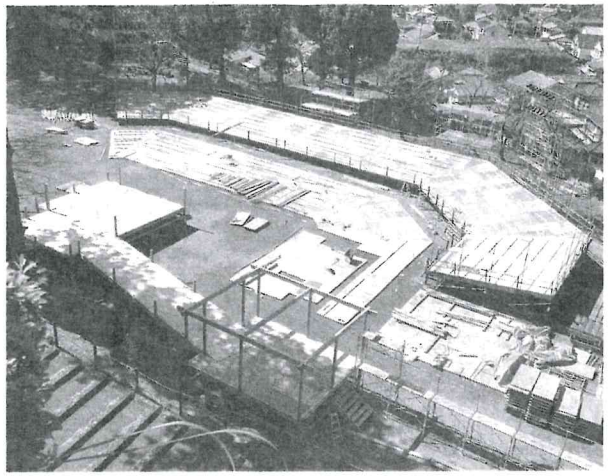
出演は観世流能楽師シテ方で同薪能をプロデュースする片山九郎右衛門さん、大蔵流狂言師の茂山七五三（しめ）さん、同じく大蔵流狂言師の茂山逸平さんら。演目は2010年（第14回）以来2回目の公演となる能「海士」「現在の宮崎市を舞台とし同薪能では初上演となる能「景清」「七五三さん逸平さんの親子共演による狂言「魚説経」。

「海士」は母と息子、「景清」は父と娘の、ともに親子の再会と情愛の物語。「海士」は今回、赤頭三段之舞（あかがしらさんだんのまい）の特殊演出となり、藤原房前（ふさざき）大臣役の子方（こかた）は、同市の下沖美乃莉さん（西階中1年）が務める。

「魚説経」は魚の名前尽くしの言葉遊びを面白がる物語。また、同市の子どもたちによる仕舞「合浦」「羽衣」、連吟「船弁慶」（キリ）も披露される。

チケットは指定S席8000円、自由A席5000円（指定SS席1万円は完売した。延岡総合文化センター、同市文化課（市役所南別館）などで扱っている。当日券もある。なお、自由A席に限り「チケットぴあ」（Pコード495999）で購入できる。詳しくは同交流機構（☎延岡33・0248）へ。

片山さんとのけいこに臨む、能「海士」の子方、下沖美乃莉さん



設営が進む会場（きょう午後1時）

片山九郎右衛門さん

茂山七五三さん

1964年、九世九郎右衛門＝故・幽雪（人間国宝）の長男として生まれる。祖母は京舞井上流四世家元の故井上愛子（同）。幼少より父、長じて八世観世銕之丞（同）に師事。芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。2008年から京都観世会会長。11年に十世九郎右衛門を襲名。

1947年、四世茂山千作（人間国宝）の次男として誕生。76年、兄の正義（現千作）、いとこのあきらと共に花形狂言会を発足。海外に狂言を紹介する活動も積極的。チェコ共和国に「七五三の会」発足。2008年、日仏交流150周年記念で公演。テレビでも活躍する宗彦、逸平の父。

使用予定の内藤家旧蔵面

同薪能では毎回、延岡市に残る延岡藩内藤家旧蔵の能面が使用される。同市には現在、「天下一」の称号を持つ面打ち師が制作した能面など72面が所蔵されている。

この中から今回は、能「海士」の前シテ海士役で「深井」、後シテ龍女（りゅうじょ）役で「泥眼（でいがん）」、能「景清」のシテ景清役で「景清」、ツレ人丸（ひとまる）役で「小面」が使用される予定。

座席、より見やすくシャトルカーも運行

今回は、より見やすくするため座席数を減らし、緩やかな傾斜で、間隔を広げていすを配置する。また、高齢者や足の不自由な人にも安心して会場に足を運んでもらうため、今回初めて南側登城口（市中小企業振興センター前）から三の丸まで無料のシャトルカーを運行する。

「泥眼」（天下一是閑作）

「深井」（天下一若狭作）

装束で役柄を表現

能楽講座で着付け公開

公演を前に、延岡市東本小路の市民協働まちづくりセンターでこのほど、「能楽の舞台裏を見る」と題した講座が開かれ、同薪能に第1回から出演している観世流能楽師シテ方の橋本忠樹さんが、能装束の着付けを公開した。同交流機構主催。

参加者約30人が取り囲む中、主演目の能「景清」にちなみ、想定される男性の能装束の着付けを数パターン、大きなスーツケースを開けるところから披露。

「着流し」「大口袴（おおくちばかま）」など能装束の組み合わせによって、流され人や武士などの役柄が次々と表現されていった。

能の世界に着付師は存在しないため、着付けは演者である能楽師同士で行わなければならないとしんは一そう能（の公演）になっておりわせた。

また「師郎右衛門さんの薪能に対し強い思いがあるので、おいただくと緊張しますかした。

あらすじ

能「海士（あま）」

藤原不比等（ふひと）の嫡子、房前大臣は、亡き母を追善しようと讃岐国志度の浦を訪れた。すると海女が現れ、昔話を始める。

不比等と出会い、男の子を産んだ海女は「もし私が海に潜り、竜宮から玉を取り返したなら、この子をあなたの跡継ぎにしてくれますか」と尋ね、それを承知され入り、竜た。

海女は、くる竜から、乳房り、その戻って来る。この源大臣の母換えに命母と子の物